ネットワーク連絡会　会議要旨

日　時 ： 平成２１年３月３０日（月）午後６時～８時
会　場 ： しんじゅく多文化共生プラザ　多目的スペース
参加者 ： ３１人

～区長挨拶～

区長：みなさんこんばんは。今日はネットワーク連絡会に参加できることをとてもうれしく思っています。私は区長になって、早いものでもう７年目になります。

以前もお話しましたが、区長に就任したとき、私は新宿のまちの課題は非常に明確だと感じていました。一般的に大きな課題でいいますと、日本が抱える少子高齢社会に地域としてどう的確に対応できるか、まちづくりをどう行っていくかということだと考えておりました。また、このまちの大きな特色であり、強みでもある、外国籍の方が多いということを積極的な特徴としてみなさんに発信できるような多文化共生のまちづくりがこのまちの大きな課題であるとも考えていました。まずは実態調査を実施することからはじめ、平成１７年９月にしんじゅく多文化共生プラザがオープンしました。オープンから３年半が経ち、みなさんに支えていただいていることをとてもうれしく思っています。

新宿区は多文化共生を推進するというスタンスは明確です。本日はみなさんに現在抱えている課題、行政の取組みが不十分なこと、重点的に取り組むべきことなど、率直なご意見をいただきたいと思っています。本日出席できることを楽しみにしてまいりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。本当にいつもありがとうございます。

～進行説明～

区：＝＝次第・資料の説明＝＝

～自己紹介～

＝＝参加者の自己紹介・活動紹介＝＝

～しんじゅく多文化共生プラザの実績報告について～

区：＝＝プラザの利用人数や相談件数などを説明＝＝

～外国人のための日本生活スタート応援事業の

取組みについて（報告）～

区：＝＝新宿生活スタートブック、ＳＨＩＮＪＵＫＵ ＣＩＴＹ ＧＵＩＤＥ ＭＡＰの説明＝＝

文化観光国際課長：
　ただ今ご説明しましたように、皆様のご協力をいただきまして、このようなすばらしいものが完成いたしましたことに感謝申し上げます。早速スタートブックにつきましては、先週末から区役所本庁舎１階の外国人登録窓口で、日本に初めて来るすべての外国人の方へ外国人登録の手続きの際にお渡ししています。
　来日して、まず最初にスタートブックをご覧いただくことで、日本のルールや自分の国にはない生活習慣などを考えるひとつのきっかけにしていただきたいと思っています。

区：＝＝外国語版ビデオ・ＤＶＤ「はじめまして　新宿」の説明・放映＝＝

～２１年度多文化共生事業について～

区：＝＝２１年度の多文化共生事業及び協働復興模擬訓練について説明＝＝

～意見交換～

Ａ：２週間ほど前、夜に救急事故が発生しました。事故に遭ったのは日本語が全く話せない韓国人のお年寄りでした。救急車が来たのですが、話しが通じないので、３０分ほどかかって通訳のできる方を呼んでようやく救急車で運ばれました。
　私たちのまちのなかで今一番困っていることは、日本語のいらない世界ができていることです。その方たちが救急事故や災害に遭った時にどのような体制が取れるのかネットワーク連絡会で検討できればと思っています。

区長：今のお話についてみなさんどう思いますか。日本語学習支援を充実し、コミュニケーションを円滑にすることで多くの問題は解決できるということで、本日ご参加の方々にもご協力いただいているところです。今お話いただいた事故については、近くに日本語ができる韓国の方がいて、その方に通訳していただいてつながったというところがあると思います。
　母語を大切することとあわせて、この地域で暮らしていくときのコミュニケーションの道具としての言語は日本語です。日本語の学習支援は区としても可能な限り行いますので、日本語を覚えていただきたいという思いは強くあります。具体的に緊急時にどのように支援していく必要があるのかご意見いただきたいと思います。

Ｂ：コミュニケーションの支援に関しては、いくら努力しても個人差があります。

このような問題を解決できるシステム作りと日本語教育を同時に行っていく必要があります。来日したばかりの外国人は日本語でコミュニケーションがとれず、問題が起きる可能性があるので、どのようなシステムで解決できるか考える必要があります。

プラザの運用実績の説明の中で大学生が増えたとありましたが、それもひとつの成果だと思います。大学の研究者などが外からこの地域を見た場合、新宿区は成功事例のサンプルとして取り上げられています。客観的に見たらそのようにとらえるかもしれません。ただし、生活している方の当事者目線、つまり日本人生活者の当事者目線と外国人生活者の当事者目線の両方を考えて新宿区は施策を決めていくことが必要です。

このシステム作りについては、具体的な案はまだ浮かんでいませんが、努力していかなければならないと思いますし、自分としても何とかして実行できればと思っています。

区長：行政も努力をしたいと思っています。

Ｃ：コミュニケーション支援は長期的には非常に大切なのですが、この場合は道で倒れている方の緊急支援ということになります。もしかするとこの方は、普段は流暢な日本語を話す方かもしれません。しかし、急な病気や事故などでとっさに日本語が出てこないこともあると思います。そのような方を支援していくことも必要だと思います。

現在、各地で医療通訳などの需要は大きいのですが、実際は整備が進んでいないのが現状です。もちろん日本人だけの問題ではなく、同じ出身地の方々が緊急支援の連絡網を作ったり、近隣で医療通訳者を配備したりするなどの方法を検討しなければなりません。特に新宿は繁華街を抱え、旅行者も多いのでそのような対応を整備する必要があると考えます。

Ｄ：東京都が運営している「ひまわり」という医療通訳の組織があり、午前９時から午後８時までは通訳が可能ですが、それ以外の時間は対応できません。特に災害の時には、医療通訳者が現場にたどり着かない可能性が高いです。

日常生活に必要な日本語の習得は、遅かれ早かれできますが、法律・医療用語は難しいのでよほど勉強しないと習得できません。特に緊急の時には言葉が出てこなくなります。２４時間体制の医療通訳サービスの体制を整備するのは非常にお金がかかるので、新宿区独自に作るのではく、東京都内共通のセンターがあればよいと思います。

Ｅ：しんじゅくニュースの３月２５日号に外国人の健康をサポートする団体の特集記事があります。電話相談も記載されているので参考になると思います。

Ａ：まちのなかで、韓国系・中国系・ラテン系など、２４時間営業の店舗と区が提携を結んで救急事故、緊急事態が発生したときに通訳などの協力してくれるとい

う体制を考えていただきたいと思います。

Ｆ：地域のなかで、外国語を話せる方と協力することは非常によいことだと思います。しかし、現実を考えると、２４時間営業の店舗ならよいのですが、一般の方だと対応ができないという課題もあります。私は最近、個人的に内閣府などで勉強会をしているのですが、その際、外国人向けの行政のパンフレットの翻訳などについて提案をしています。各自治体などがそれぞれお金をかけて翻訳して、作成していますが、８割程度のものは内容が同じです。翻訳の言語も限られていますし、同じ翻訳を何度も繰り返しているので非効率です。

　また、例えば１１９番は英語では対応できますが、他の言語は対応していません。在日外国人のうち英語を話す方は１５％くらいです。これでは１１９番が外国語に対応しているとは言い難いと思います。地方では緊急電話が英語にも対応していないところもあります。

　印刷文の翻訳の問題、緊急電話の問題は全国レベルの自治体で、「翻訳センター」や「１１９番・１１０番センター」のようなものを作り、一括して広域的な対応を行うことはできないかと思っています。

　このようなことを各地方自治体などにご提案いただくということは区長としてはいかがでしょうか。

区長：今ご提案いただいた取組みもメリットがあると思うのですが、私は効率化・集約化できることと、できないことがあると思っています。新宿区では、大久保や北新宿に外国籍の方が多く住み暮らしていますが、その地域で２４時間営業の店舗と連携が図れるのであれば、そちらの方が地域としては顔と顔が見える関係で現実的であると思います。

　本日お配りした資料の２１年度新たに取り組む事業「外国人への情報提供のガイドラインの作成」というのは、今のお話と通じるところがあると思います。効率化できて共有できるものはツールとして持つ必要がありますが、それぞれの地域のなかで、人とつながって、自分の身の安全や利便性を獲得していって、地域の一員として生活してほしいと思っています。

Ｆ：現実に、中国の女性の方の話ですが、夜中に家のドアをノックされて非常に怖い思いをしたのですが、警察に電話するにも言葉が話せないということがありました。彼女は帰国した母国の先輩に電話をかけて、その先輩が周りの人に連絡してくれたということでした。区長はそれぞれの地域ということを強調されていますが、その地域にまだ根ざしていない外国人の方も多くいます。地域に溶け込むまでの期間に、事件が起きた場合に解決する方法は、緊急を要するので問題になると思います。

Ａ：有名な話ですが、サッカー日本代表監督であったオシム監督が倒れたときに、救急車が呼べず、一度フランスに電話をかけ、フランスから日本へ連絡してもらって助かりました。区役所が２４時間営業の店舗と提携を結び、地域住民もそれ

に協力する。また、外国人の方は日本語でコミュニケーションを図れるよう努力する。というような体制ができればよいと思います。

危機管理課長：
　先日、「在住外国人のための効果的な防災対策」という答申を都知事に提出しました。外国人に伝える日本語はやさしくしなければなりません。
　また、在住外国人のネットワークは存在していますが、なかなか区に情報が届かないという問題があります。本日ご出席のみなさんにも把握しているネットワークがあると思います。それを国際交流協会などの組織がまとめて、各地域の国際交流協会と連携を図って、災害時の協力体制を整備していくことも必要だと思います。

Ｂ：みなさんのご意見をお聞きして、すべてのご意見に一理あると思います。しかし、すべての課題を解決できる方法はないと思います。さまざまな場面・課題を出し合って、そのひとつひとつをどう解決できるかを考えていければよいと思います。これからこの地域に合ったシステム作りをしていく必要があると思いますが、そのシステムで対応できるのは限られた問題だけです。違う問題が出てきたときには、また違うシステムを作る必要があると思います。すべての問題を一気に解決できないということを理解しておかないといけないと思います。

Ｇ：日本が鎖国をしない限り、言葉による問題はなくなりません。新規に入国する外国人は増え続けています。そのような意味では、永遠に対策を続けなければいけません。しかし、外国人が日本に来る場合に、日本に全く知り合いがいないケースは珍しいです。ほとんどの人が、学校や就職先など母国の人とのつながりがあって日本に来ます。そのようなネットワークが有効に活用できればいろいろな問題が解決できると思っています。
　今後、外国人のネットワークも育成しなければならないと感じています。韓人会のなかでも、地域貢献という視点が出てきました。韓国人以外にも新宿区には１００を超える国籍の方が集まっていますので、母国のネットワークを作って、コミュニケーションを図れればよいと思います。行政としても、外国人のネットワーク作りの支援やサービスを行っていただければと思います。

区長：私はぜひ外国人のネットワークの育成はしたいと思っています。地元の日本人の方々が外国人の方とコミュニケーションを図って、よい地域社会を作っていくときに、相手方が見えて一緒に話し合えるということは、地域の問題を解決するうえで大きな力になると思います。このネットワーク連絡会もそのような場にもなるように開催しています。
　外国人へのサービスについては、新宿区は誇ってよいと思っています。保育園・幼稚園・学校すべてで受け入れて、適応指導などの日本語サポートが受けられます。日本人と外国籍の方が同じ地域社会の住民として、共生してほしいと思っております。

Ｈ：先日、ＮＨＫ番組に出演されていた先生がクモ膜下出血で倒れ、病院に行きました。彼は日本語を完璧に話すのですが、そのときは日本語でのやり取りができなかったのです。また、保証人がいないと手術できないという状況にもなりました。日本で暮らす外国人は、言語だけでなくそれ以外の問題も抱えています。だから私たちは外国人が集まることができる団体を作りました。

今私たちの団体には、２１カ国の国籍の方で、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語の４カ国語を話す方が集まっています。その４カ国語を活かして、緊急事態の時に、私たちに電話をかけるようにしています。新宿区から要望があれば、私たちの団体が緊急事態に対応できるような体制を作れると思います。新宿区からも何か支援があれば、そのような活動が活かせると思います。

また、子どもの支援などにも力を入れていきたいと思っています。日本語がわからないと授業についていけないので、子どもたちがしっかり学べるように協力できると思います。

Ｉ：私の住んでいる地域では、外国の方と一緒に共生するということに切実に困っているということはありません。地域に住んでいる外国人の方はほとんどが日本語でコミュニケーション図れる方です。

しかし本日、皆さんのご意見をお聞きして、切実なのだなと実感しました。外国人のネットワーク作りが必要だと思いますが、そのネットワークが日本語を必要としない場になっては効果がないと思います。難しいと思いますが、外国人のネットワークのなかに、ところどころ日本人が入るような仕組みづくりをしないといけないと思います。地域の核となるのは町会であると思います。外国人のネットワークが町内で把握できるような体制が必要だと思います。

Ｊ：東京都の国際化推進検討委員会で議論されましたが、国際交流協会が外国の方々との災害時の橋渡しになれるような機能を発揮させるようにすることも大切なことです。

新宿区では、区内８箇所で初級の日本語を学ぶ場を提供しています。さらに日本語を勉強したい方のためには、区内のボランティア日本語教室を紹介しているので、日常的な会話については勉強できます。日常的にどのように日本語の支援をしていったらよいのか、特にサバイバル（緊急時）の問題をどのように教えるのかも考えていかないといけないと感じています。区として、「これは絶対教えてください。」というような日本語学習の方針を明確にする必要があると思います。ただし、例えば自分が倒れてパニックになってしまったときなどのことは、日本語学習支援でカバーすることは難しく、やはり支援するシステムを整備する必要があると感じます。日本語が話せるようになるということは大切ですが、そうでない方を緊急のときに支援することも重要だと思います。

Ｇ：先程、外国人のネットワークについて、私の説明不足で誤解があったかもしれないので補足させていただきます。外国人のネットワークというのは、新規で入国する外国人だけのネットワークではありません。つまり、日本語が流暢な人、

安定した職業を持っている人、日本の生活ルールを理解している人など様々な人がいます。トラブルに遭ったり、問題を起こす人はたいてい日本のルールや習慣がわからない新規に入国してきた人です。

　そのような人に、同じ国籍の先輩がいろいろなことを母国語で教えれば理解しやすいと思います。「新宿生活スタートブック」もそのような目的で作成しました。

　また、外国人のネットワークに日本人が参加するというのも非常によいことだと思います。最終的には日本人と変わらない外国人を目指すということなので、日本人と同様の町会などに入って活動できるまでの過渡期として外国人のネットワークがあればよいと思っています。

区長：私が就任したときに、例えば大久保は非常に外国籍の方が多いので、外国籍の人だけのまちにしてもよいのではという意見もありました。しかし私は、これまでいた日本人も、お越しいただいた外国籍の人たちも、お互いに理解しあって地域を作っていただきたい、「多文化共生のまち新宿」を目指したいというメッセージをみなさんに明確に出したいと思っていました。

　そのために一番大事なこととしては、コミュニケーションツールとして日本語学習をすることだと思います。それとあわせて、災害時や緊急時の対応も非常に大切なのですが、日本人でも緊急時には大変なことが起きます。また、個人が努力することも必要です。地域住民が助け合うことも必要です。もちろん様々な視点から行政も努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Ｋ：外国人向けに災害時のセーフティカードを作成したと思うのですが、非常に便利だと思います。外国人の方に広く配布していただきたいと思います。

Ａ：夜間の緊急時などはセーフティカードのようなものは持っていないことが多いです。事故が起きた時、偶然近くにいた人が助けようとするときに、区が提携している店舗があれば非常に有効だと思います。

区長：検討させていただきます。

Ｌ：ホームパーティを開いてコミュニティを再構築するという活動をしています。その際の区民センターの利用について少し緩和していただきたいと思っています。具体的には、柏木センターの調理室を借りてコミュニティ再生のために使用したいと申請すると、お断りされてしまいます。料理教室のみお貸しするそうです。目的を変えて料理教室にしても、先生に支払うお礼が高いと利用させてもらえません。また、近くの老人の方に作ったものをお渡しすることも許可してもらえません。日本人の私でも使用申請にわからないことが多くあるので、外国人の方が利用したいと思っても無理ではないかと思います。

大久保特別出張所長：
　各地域センターによって細かい基準の違いはございますが、みなさんが一番利用しやすいようにすることが大切であるとは思います。ご指摘の部分は確認させていただきたいと思います。

区長：新宿区の地域センターは住民が管理する管理運営委員会が運営をしています。そうは言いましても、地域センターの目的はコミュニティ作りですので、杓子定規にならずに判断することが必要であると思います。

Ｍ：私たちの団体はこの中では特異だと思いますが、普段は難民に特化して公的支援や生活支援をしています。昨年は 1,600 人近く難民申請者の方がいたように、昨今では申請者の方が増え、我々も毎日多くの相談を受けています。
　本日防災のお話が出ましたが、災害が起きたときに被災地にスタッフが入り、要援護者の方、特に外国人を支援するという新しい事業を始めました。これはシビックフォースという国際協力ＮＧＯ3 団体で組織しています。
　活動の中で私たちが課題としていることは、言語能力についてです。最近はミャンマーやスリランカ、エチオピアの方が増えてきました。このような方たちはあまり日本では話す方が見つからない言語を話すので、他の団体に協力を求めています。それぞれの団体は得意分野を持っていると思います。特に災害発生時は行政も混乱して、外国人支援まで手が回らないと思います。そのようなときこそ、こういうネットワークを活かして連携していきたいと思います。平時のときに準備しておかないと、いざという時に対応できないので、このような場を持って意見交換を行うことが大切であると思います。

区：お話は尽きないことと思いますが、予定の時間が過ぎてしまいました。本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございました。また、次の機会に活発なご意見を交わしていただきたいと思います。本日はありがとうございました。